

令和3年2月4日

第2回定例会
議事録

文京区教育委員会

文京区教育委員会議事録

第 2 号

令和3年 第2回 定例会

日時：令和3年2月4日（木）午後2時

場所：区議会第二委員会室（Web 会議）

「出席」	教 育 長	加 藤 裕 一
	教育長職務代理者	清 水 俊 明
	委 員	田 嶋 幸 三
	委 員	坪 井 節 子
	委 員	小 川 賀 代

「説明のために出席した教育局職員」	教 育 推 進 部 長	山 崎 克 己
	教 育 総 務 課 長	松 永 直 樹
	学 務 課 長	木 村 健
	教育推進部副参事	岩 田 雅 治
	教 育 指 導 課 長	松 原 修
	児 童 青 少 年 課 長	石 川 浩 司
	教 育 セ ン タ ー 所 長	真 下 聡
	真砂中央図書館長	内 藤 剛 一

「書記」	庶 務 係 長	伏 屋 明 子
	庶 務 係 主 事	高 橋 翔

令和3年

第2回教育委員会定例会

令和3年2月4日（木）午後2時

場 所 第二委員会室(Web会議)

議事録署名人 小川賀代委員

第1 議案の審議

第12号議案 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

第13号議案 令和2年度学校保健・学校給食に関する表彰について

第2 報告事項

(1) 令和3年度文京区教育委員会主要施策について (資料第1号)

(2) 令和2年度文京区教育研究奨励受給者の決定について (資料第2号)

第4 その他の事項

《参考資料》事業（行事）実施及び各施設の利用状況等

「開 会」

(14:00)

○加藤教育長 それでは、第2回教育委員会定例会を始めさせていただきます。

前回に引き続きまして、Web形式での開催となります。ご発言の際には手を挙げていただきまして、その方にご発言していただくという形をとりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、出席状況から確認させていただきます。委員は全員出席いただいております。理事者も全員出席しております。

本日の議事録署名人でございますが、小川委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(はい)

第2 議案の審議

第12号議案 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

○加藤教育長 それでは、議案の審議に入らせていただきます。本日は2件です。

初めに、第12号議案「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について」。この件について、お願いします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第12号議案、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

最初に、私のほうから概略をご説明し、後ほど教育総務課長から点検及び評価の詳細についてご説明申し上げたいと存じます。

本案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を取りまとめるものでございます。

1ページをお開きください。こちらに点検及び評価の実施要領を記載してございます。令和2年度の点検及び評価ということで、対象となりますのは令和元年度中の施策となっております。

3ページから15ページまでは、3つの視点の各項目から主要施策を抽出し、それに対応する事業の取り組み状況、成果・実績等、課題、今後の対応・方向性、学識経験者の意見を踏まえた総合評価をまとめて、表形式で記載しております。

16ページから21ページまでは、学識経験者からいただいたご意見を掲載しております。ご意見をいただいた学識経験者は、東京女子体育大学教授の出張吉訓氏と東京大学大学院准教授の北村

友人氏のお二方でございます。

22 ページ以降は、参考資料といたしまして、教育目標と令和元年度の主要施策を添付してございます。

なお、この点検及び評価の報告書は、教育委員会決定後、区議会へ提出し、公表する予定でございます。

それでは、各項目の点検及び評価のまとめについて、教育総務課長からご説明いたします。

よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○教育総務課長 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について、説明させていただきます。

本報告書は、教育ビジョンにより設定された教育目標に基づき主要施策を策定し、主要施策に位置づけられた3つの視点及び図書館行政について、学識経験者の知見を活用しながら教育委員会で点検・評価を行ったものでございます。

資料をご覧になってください。3 ページから 15 ページにわたりましては、個別の点検・評価表を記載しております。今年度につきましては、13 の施策について評価いたしました。

3 ページ目をご覧になってください。評価の対象としては、令和元年度の主要施策を推進するための具体的な取り組み状況及び実績を記載しているところでございます。

評価表の中段以降は、各担当所管による1次評価となるところで、課題と今後の方向性、該当事業の令和元年度の予算・決算額について、記載しております。

一番下の総合評価は、各担当所管において、学識経験者の意見を踏まえ、総括的な自己評価を行っております。

具体的に、こちらの3 ページ目を説明させていただきます。

視点1「学校教育における知・徳・体のバランスのとれた力の育成」の(1)「確かな学力の定着」に位置づけられた主要施策でございます。

こちらは、小学校及び中学校においてプレゼンテーション能力の育成を目指すため、小・中学校6校で実施しているプレゼンテーション能力向上プログラムと並行し、カリキュラムの開発を行うというものでございます。

総合評価として、幼稚園・小・中学校の発達段階によったプレゼンテーション能力を育成するカリキュラムを開発できたことは成果であるが、教材の著作権による制約は課題である。今後プレゼンテーション能力を育む場面を授業の中で意図的に実施できるように研究していくというものでござ

ございます。

4 ページ目以降は同じようなつくりとなつてございますので、ご覧になってください。

先ほど部長からも説明ありましたように、16 ページから 21 ページは学識経験者よりいただいた意見を掲載してございます。

22 ページから 24 ページまでは、教育委員会の教育目標及び主要施策を掲載してございます。

説明は以上となります。

○加藤教育長 それでは、この説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○坪井委員 送っていただいた資料を全部十分に読みこなせていないので、申しわけありませんが、ベースとなった資料を全部わかっていないという前提で教えていただければという点を何点かお願いしたいと思います。

まず、プレゼンテーション能力の部分で著作権の問題が出ているということですが、どのような著作権が出たのかについて具体的に教えていただきたいし、それをどう解決されるのかということについてお願いしたいのが 1 点目です。

2 点目です。5 ページ、「BUNKYO2020 サーキットトレーニング」を教育委員会でおつくりになったという点です。「サーキットトレーニング」の資料が入ってしまつて、中身を拝見したんですが、コロナのために実践はできていなかったと評価されていまして、中身がどんなものなのか、もう一回説明していただいた上で、どんなふう実践にお使いになるおつもりなのかというのを教えていただきたいと思ひました。

3 点目です。「幼・保・小・中の連携・接続」というところに関して、学識経験者のご意見として、保育園がその連携の中に入ったということで、今、努力されているという形の評価がありました。保育園が、小学校に上がる子どもたちのためにどのような形で今、連携の中に入っていらっしゃるのか。幼稚園教育とまた違う保育園での取り組みについて、どのようなことが評価されたのかということをお教えいただきたいのが 3 点目です。

4 点目です。10 ページの『『文京区部活動の在り方に関するガイドライン』に基づき』の部分です。ここで、その実践がなかなかできていないということが出ております。実際、教員の負担軽減ということにおいてどの程度の実績が出ているのかということをお教えいただきたい。

もう一つ。7 ページの「特別支援教育」のところ、中学校の情緒障害児教室を令和 3 年度準備中という表現がありました。それがどのような状況なのかをお教えいただきたいと思ひました。

全般的に文京区が非常に頑張っていらっしゃるというのがわかる内容でしたので、ぜひともそう

した点について、さらに教えていただきたいと思った次第です。

○教育指導課長 プレゼンテーションのカリキュラム開発で大きく2つ成果物がございます。指導計画と教員が使用する指導の手引きの冊子、それとは別に、プレゼンテーションのスライドをつくっていただいております。そのスライドを各学校が使用するときに改変をするところを、ご協力いただいた団体の方が、そこについては著作権もあるので、改変をしないで使用してほしいということがございました。通常、カリキュラム等は、その学校の子どもの実態等に合わせて当然変えていく部分がありますので、そこのあたり協議をさせていただきました。スライドはあくまでもプレゼンテーションの授業をしていくときの最初の導入の部分で使用するもので、そこについては改変をせずに、ご協力いただいた団体の講師などにも来ていただき授業をしていただく。その先、実際に子どもたちがそのプレゼンテーションにかかわる部分でいろいろな調べ学習をしたり、探求活動をしていくときは、その資料とは少し離れて、それぞれの学校が独自に行ってまいりますので、そういった意味で著作権にかかわるところは手をつけないような形で実践をしていくということで話しているところでございます。

○教育センター所長 サーキットトレーニングでございますけれども、こちらは順天堂大学さんの協力をいただき、また青柳小学校をモデル校として昨年度開発したところでございます。内容的には、朝のちょっとした時間であるとか昼の短い時間を活用して、今回紹介している6種類程度の運動を短時間で効率よく遊びながら楽しみながら子どもたちの体力向上につながるような中身となっております。

昨年度開発して、今年度、協力していただいた青柳小学校をモデル校といたしまして、評価という予定でございましたけれども、このコロナ禍においてなかなか評価するのは難しいかなということで、できる範囲でという話で進めているところでございます。また、来年度におきましても、評価は難しいところがあるかなという話も聞いているところでございます。このサーキットにつきましては、各校には既に案内済みのところでございますので、できる範囲内で、密にならないような環境、あるいは内容の工夫をしていただいて、取り組める範囲内で実践していただくかなということでお話をさせていただいているところでございます。

○加藤教育長 3点目、保育の取り組みですが、わかる範囲で「保・幼・小・中の連携」ということ。4点目は、部活動の関係の教員の負担。5点目の茗台の状況。合わせて指導課長のほうからお願いします。

○教育指導課長 まず、「保・幼・小・中の連携」でございます。こうした連携については、さまざま

まな地区で今取り組みが行われているわけですが、小学校と中学校の連携が多く、進んでいるところでは幼稚園なども入っているという中で、文京区は保育園も参加できているということを今回評価していただいたと捉えております。

また、こうした連携の場で、これから入学してくる子どもたちの様子などが話題の中心になることが多いわけですが、文京区は、そういった時期あるいは情報にとられることなく、例えば、通常の教育活動の中でどんな工夫をしているかとか、どんな課題があるかということ先生方が情報交換をしたり、その中で顔見知りになることで、その後、必要に応じて情報交換などもスムーズにできるようになります。そうした校種が幅広くかかわっているというところと、内容も、子どものことだけではなく、教育活動の部分などにも触れているということで、今回評価をしていただいたのではないかと考えております。

続きまして、部活動でございます。具体的にどれぐらい教職員の軽減になっているかというのは数値化は難しい部分があります。部活動指導補助員の 85 名というのは、お手伝いをいただいて大変助かっているところですが、実際には教員も一緒にかかわっております。新たに今回の部活動指導員の 20 名の方というのは、教員がいなくても部活動を指導していただけるものです。例えば、土日に関わることがあるような場合でも、教員が引率をしなくても部活動指導員の方に引率していただける。この 20 名分については、10 校で 20 名ですので、1つの学校について2つの部活動という単純計算になりますけれども、20 名程度の教員の業務が少し軽減されていると捉えております。

最後に、中学校の情緒の特別支援学級の開設についてでございます。既に保護者の方にもご説明申し上げ、また、就学相談の中で、来年度入学を予定されている方の手続等も今進めております。また、校内の教室等も、今までは特別支援教室の拠点校として活用してきた部分を今度は固定学級として活用いたしますので、そういったところは学務課と連携して環境を整えて、4月にはスタートができるように準備を進めているところでございます。

○加藤教育長 坪井委員、よろしいでしょうか。

○坪井委員 ありがとうございます。大変よくわかりました。

○田嶋委員 今の坪井先生とも関係するんですけども、まず、BUNKYO サーキットは小学校の低学年から高学年に向けてあります。これは出張先生も北村先生もご指摘していらっしゃるんですが、文京区は特に中学校の体力がない。体力テストでは全国平均よりも劣っていると思います。中学校での何か体力アップのためのことは考えていらっしゃるのでしょうか。それが1番目です。

○教育センター所長 中学校の体力アップにつきましては、中学校には体育の専科の先生はいらっ

しゃるところですけれども、スポット的に支援をすることで、より子どもの体力向上が望めるかなというところを鑑み、来年度はテクニカルアドバイザーという形で、時間数を決めて、一般的に文京区の中学生在が弱い器械体操といったところを中心といたしまして、その専科に特化したアドバイザーを派遣する形で中学生の体力アップ向上を狙って実施する予定としているところでございます。

○田嶋委員 先ほどの部活動指導員補助の方たちの待遇と資格というのは何かあるのでしょうか。

○教育指導課長 部活動指導員のほうは、時給が 2500 円、部活動指導補助員のほうは、時給が 1250 円になります。資格については、担当される部活によって違いますので、専門性がある方というふうにはしておりますが、学校のほうで採用するとき判断をさせていただいているところでございます。

○清水委員 コメントです。今回の点検・評価は、学識経験者の先生方からおおむね良好な回答を得られておりますし、今後の教育行政に反映させていただくということだと思います。これは令和元年のことを評価しているわけで、この間に新型コロナ感染のことが入ったりしていますので、今後の対応・方向性ということに関して、今回の提案にコロナ関係のことも踏まえて考えていただければと思います。

○加藤教育長 冒頭で部長から説明がありましたように、法律の仕組みの中でこれをやっていますけれども、今、清水委員が言われたように、その後状況も変わっていますし、毎年毎年1つ前の評価という形になりますので、そこはそこでしっかりやって、変化の部分については対応した上で、また適宜、委員の皆様には情報提供していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてもよろしいでしょうか。

○清水委員 1つ、提案をいいですか。いつもは「異議なし」と言うんですけども、Web 会議では、承認の場合は手を挙げるというのはどうでしょう。

○加藤教育長 はっきりわかるように、承認の場合は手を挙げていただくという形でよろしいでしょうか。

それでは、もう一度お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてもよろしいでしょうか。

(全員挙手)

○加藤教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

第13号議案 令和2年度学校保健・学校給食に関する表彰について

○加藤教育長 続きまして、第13号議案「令和2年度学校保健・学校給食に関する表彰について」。

この件について、説明をお願いします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第13号議案、令和2年度学校保健・学校給食に関する表彰につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページ目をご覧ください。1の健康努力児童・生徒表彰候補者ですが、小学6年生、中学3年生を対象として、小学校51人、中学校24人の計75人でございます。書面による表彰審査会を開催し、候補者として選定いたしました。別紙1に学校名と候補者氏名を記載しております。

次に、2の学校保健優良校表彰でございます。表彰候補校は、小学校2校で、窪町小学校、大塚小学校です。中学校は1校で、第六中学校でございます。同じく書面による表彰審査会を開催し、候補校として選定いたしました。

裏面をご覧ください。次に3の学校給食優良校表彰です。表彰候補校は、柳町小学校です。こちらも同じく書面による表彰審査会を開催し、候補校として選定いたしました。

別紙2から別紙4までは、それぞれの表彰要領等を添付しております。

なお、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、2月25日に開催を予定しておりました令和2年度文京区学校保健・給食大会が中止となりましたので、被表彰者等には学校を通して賞状を授与いたします。

よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○加藤教育長 この説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてもよろしいでしょうか。

(全員挙手)

○加藤教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

第2 報告事項

(1) 令和3年度文京区教育委員会主要施策について

○加藤教育長 続きまして、報告事項に入らせていただきます。本日は2件です。

「令和3年度文京区教育委員会主要施策について」。この件について、説明をお願いします。

○教育総務課長 それでは、令和3年度文京区教育委員会主要施策について、説明いたします。

資料第1号をご覧ください。主要施策につきましては、先ほども説明いたしましたが、教育目標に基づき教育施策を推進するため、教育委員会及び学校・幼稚園が推進すべき施策を定めた単年度計画でございます。

3年度の主要施策につきましては、令和元年度に策定しました教育指針にのっとり、また、指針に記載のない図書館についても施策を定めるものでございます。また、主要施策につきましては、点検・評価を、今回、3年度につきましては4年度に行い、実効性を高めていくものでございます。

具体的主要施策の内容でございます。

1「学校教育等」の視点1「持続可能な社会を見据えた新しい未来の創り手の育成」の①「新しい未来に向けた教育活動の推進」です。こちらは、児童・生徒に1人1台ずつ配備されたタブレット端末等を活用し、Society5.0を見据えた新しい授業スタイルを創造するというものでございます。

次に、視点2「学校教育における知・徳・体のバランスのとれた力の育成」の①「確かな学力の定着」です。全区立小・中学校に外国人英語指導員(ALT)の配置等をし、小学校ではGTEC Junior、中学校では英検等で4技能の定着の効果検証を行い、教員の授業改善や児童・生徒のコミュニケーション能力の育成を図るというものでございます。

2ページ目をご覧ください。視点3「地域ぐるみで子どもの教育に取り組むための連携・協働」の①「家庭・地域と連携した学校・園づくり」です。地域住民の参加を得るためのネットワーク機能の充実を目指し、教育活動の充実や教員負担の軽減につなげていくというものでございます。

次に、視点4「子どもの学びを保障する教育環境」の③「子どもたちの課題に対する専門的アプローチ」です。子ども本人と保護者の教育等の悩みに対する予防や早期発見、解消に取り組むため、専門職による心理的援助や発達に係る専門訓練等の支援を行うほか、小・中学校との連携を図るというものでございます。

最後に、3ページ目をご覧ください。「図書館」につきましては、読書バリアフリー法や新学習指導要領への対応等、3年度から7年度の計画を策定し、区立図書館と学校図書館の機能拡充を図り、子どもの読書環境の整備に取り組むというものでございます。

説明は以上となります。

○加藤教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○坪井委員 3点、よろしいでしょうか。

1点目です。視点1の①で、1人1台ずつのタブレット端末の配置というところがありました。この前あった補正予算の臨時会議のときにもご説明をいただきまして、Society5.0時代ということで、予算としてもハイブリッド式の教育ができるようなシステムを導入するというお話があったと聞いております。今コロナ対策についてこういったものを利用するという発想があるようですが、学校に来られない子、不登校になっている子どもたちが、通常の授業をハイブリッドの方式で聞くというような発想というのではないのかなど。そのときにも感じたんですね。今、不登校の子どもたちのための教室が別にありますが、そういう子どもたちがもし望んだ場合、教室には入れないけれども授業は聞きたいという子がいた場合に、そういう対応はとれないのかなど。これはすぐということではないんでしょうけれども、不登校の子どもたちの対応としてお考えいただけないのかなどというのが1つです。

もう一つは、英語教育です。これも数年にわたってやってきていて、現在、小学生、中学生の実用的な英語の力というのはどの程度になっているんでしょうか。私たちが小・中学生のときにはできなかったようなことが今の子どもたちにはできるようになっているのか、さらにこれからどんな見通しがあるのかということをお教えいただきたいと思います。

3点目、図書館のことです。学校図書館と区立図書館の機能拡充を図り、連携をするということになっています。小学生、中学生の子どもが、学校図書館はもちろんのことですが、区立図書館を今後利用していくということになじむという意味での教育の中での取り組みということがあるんでしょうか。そのあたりも、あれば教えていただきたいと思います。

○教育指導課長 1点目のハイブリッド授業についてです。この話が出てきたのは、当然新型コロナウイルスの今の状況もございまして、今ご指摘いただいたようにさまざまな事情で学校に来られないお子さんというのはこれからも想定されるので、その子たちにハイブリッドの授業だけではないと思いますけれども、適切な対応をしていく必要があると捉えております。

そのときに、そのお子さんたちにどういう授業を提供できるかということもありますし、ハイブリッドですと、対面で授業を行っているお子さんたちもいますので、そういった子どもたちへの配慮も必要になります。また、学校ではさまざまな教科があります。例えば国語や数学のようなものと、体育や音楽のようなものをハイブリッドでやって、どういう場合には効果があるけれども、例えば様子を見るぐらいにしか効果がないとか、教科の特性といったものもございまして。そういったものを含めて来年度夏ぐらいまでにしっかり研究をして文京区としてどういったハイブリッド授業

を提供できるかということをもとめて、そこから先は必要に応じてということになりますけれども、各学校がハイブリッドの授業を提供できるようにしていきたいと思っております。

その中で今ご指摘いただいた不登校のようなお子さんでハイブリッド授業を受けることで一定の学習についても継続ができるという場合があれば、そこはご相談になっていくのかなと思っております。

2点目の英語の力をどうやってはかるかというのはなかなか難しい面がございます。例えば、国のほうが目標に掲げたり、都のほうが目標に掲げた数字の中で、中学校を卒業するまでに英検3級程度を5割とか6割取得させようという目標がございました。そういったところは文京区においては今達成しておりますけれども、さらにそこから先ということ言うと、何人か2級とか1級とか、その上を取得しているお子さんもおりますが、そこは充実させていく必要があると思っております。

また、小学校教育については、まだ十分な成果が見えにくいところもございます。今年度からGTEC Junior というのを導入いたしまして、6年生のお子さんたちに受けていただくような環境を整えておりますので、その成果についても、来年度以降はご報告できるのではないかなと思っております。

また、東京都が、都立入試の中で、スピーキングやヒアリングのテストを取り入れるという動きがございます。今はコロナの影響で遅れてはいますが、それが始まると、中学校卒業段階の英語力もはかることができるのではないかなと思っております。

○真砂中央図書館長 3点目の図書館についての部分です。こちらに書いてあるとおり、読書バリアフリー法や新学習指導要領への対応の要素を加え、現在、子ども読書活動推進計画というのを策定しております。こちらの中で1つポイントとしましては、低年齢、例えば就学前、就学してからの低学年ぐらいまでの読書量は非常に高いんですけれども、10代になってくると、読書量が下がってきてしまう。そういった部分について何らか機能拡充を図りたいということで、例えば各学校への団体貸し出しを行うとか、関係各課、10代の子どもの来るような施設といったところとの連携を行う。また、学校等へのボランティアの派遣、そういった協働によって、特に10代の子どもの読書環境の整備に取り組んでいきたいと考えております。

○小川委員 今ご報告いただいているのは令和3年度のことかと思っておりますので、まだコロナウイルス感染症のことが落ちついてない状況なんじゃないかなと思います。ここのキーワードとして、連携するとか交流をする、活動をやっていくということが書かれています。こういうものも全部とり

あえずオンラインでやっていくというつもりでこのような書かれ方をされているのか。その準備はされているのかどうかというのを教えていただければと思います。

○加藤教育長 小学校とか中学校の教育の現場ということでもいいですか。いろんな部分、多岐にわたっていますけども。

○小川委員 学校の中だけではなくて、かなりたくさんところで連携という言葉が出てきている。例えば②の「豊かな人間性の育成」も「企業と連携し」とか、親と学校との関係で、例えば体力のところも、保護者にも意識啓発を働きかけていくとか、地域連携とか、そういったこととか、かなりたくさんある。学校の中の教育だけにおさまらないで、いろいろなところで連携と書かれていますので、その点についてのほうをどちらかという聞きたいです。

○教育推進部長 全般的な形でお答えしたいと思います。

地域や企業との連携という文言も盛り込まれているところです。実際、今年度の状況を見ますと、例えば PTA の活動なども、具体的に皆さんと集まってという活動は全然できなかった状況も出ているところです。

そういった中で、先生ご指摘のように、この4月になってすぐコロナが全部なくなって、普通の生活に戻れるということではありませんので、おっしゃられたようなオンライン等も活用しながらできるだけ連携を図っていききたいというのが全般的な形になります。

この主要施策の中で、一つ一つオンライン等という文言等は記載しておりませんが、そういった形でそれぞれの施策について工夫しながら連携がとれるような部分でできればと思っているところでございます。

○小川委員 連携とかも、とめないで、ぜひオンラインとかうまく活用して進めていただけるといいなと思っています。よろしくお願いします。

○加藤教育長 ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(2) 令和2年度文京区教育研究奨励受給者の決定について

○加藤教育長 (2)「令和2年度文京区教育研究奨励受給者の決定について」。お願いします。

○教育指導課長 資料第2号、令和2年度文京区教育研究奨励費受給者の決定について、ご説明をいたします。

文京区教育研究奨励事業実施要項に基づきまして、区立幼稚園・小学校・中学校の教職員で優秀な研究成果を上げた者に対して、個人奨励として丹羽教育研究奨励賞を、グループ奨励として石黒

教育研究奨励賞を授与するものです。

本日は概要をご説明いたします。

丹羽教育研究奨励賞でございますが、受給者は、文京区立第一幼稚園和島千佳子副園長でございます。研究主題は、「幼児の合意形成の過程および援助に関する一考察」。サブテーマ「遊びを中心とした保育の展開の中で」となります。本研究は、幼児期の合意形成の過程や特徴を明らかにし、発達の特性或幼児の実態に応じた援助のポイントを探り、教員が日常の保育に生かせるようにすることを狙いとしています。区内幼稚園教員を対象にした意識調査や事例研究をもとに幼児の日々の遊びの中にどのような学びがあるのかについて考察をします。全幼稚園で参考にすることができる内容でございます。

続いて、石黒教育研究奨励賞でございます。受給者は、文京区立関口台町小学校相原雄三校長他・8名のグループでございます。研究主題は、「プログラミング的思考を働かせながら、主体的に課題解決に取り組む児童の育成」。サブテーマ「各教科等のプログラミングに関する授業の開発を通して」となります。

今年度から小学校では、新学習指導要領が全面実施となり、プログラミング教育にかかわる教員の指導力向上とともに、児童にプログラミング的思考を育成することが求められています。本研究では、各教科等の授業実践に取り組む中で児童の発達段階に即したプログラミング的思考を育成する学習課程のモデルや指導のあり方について検証いたします。本研究が区内のプログラミング教育の充実のために活用、発展されることを期待しております。

説明は以上でございます。

○加藤教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○坪井委員 こういう研究テーマというのは一番必要な最先端のところをそれぞれの現場の先生がなさっていらっしゃるなといつも思うんです。私たちはその研究の中身を拝見するという機会がなかなかなくて、論文形式になっているのか、プレゼンテーションのパワーポイントになっているのか、わかりませんが、何かの形で見せていただけるような機会があったらありがたいというのが1つです。

特に、幼児の合意形成というところは、子どもたちのコミュニケーション能力を醸成していくという意味なのかなと思いつつ、とても大事なことだと思います。子どもたちの意見表明ということをお小さいときからきちんと支援していくというのは、子どもの権利保障の意味でも大切なことだと思います。そういう意味でも私はとても関心のあるところでもあります。また、プログラミン

グ的思考についても、今後の子どもたちの思考形態がどうなっていくのかということで大変関心があるところがございますので、全部とは言いませんけれども、要点だけでも見せていただける機会があると大変ありがたい。

そして、そうしたことを全ての学校の先生たちがどうやって共有していき、現場に生かしていくんだらうか。忙しい先生たちが、ほかの学校での研究授業を見たり、研究発表会に出席されたりするんだらうと思いつつ、本当に大変だらうなど。いい実践を共有するというをどういうふうになされていくんだらうなど、研究授業なんかを見ながらもったいないなと思っているんですが、実際どうやって生かされているのかというあたりも聞かせていただければと思います。

○教育指導課長 今回ご報告しております教育研究奨励費の件でございますが、内容としては論文形式になっております。長さ等は年度によってさまざま違いますけれども、間もなく成果物のほうも届きますので、そちらについてはご報告ができるのかなと思います。

ご指摘いただいたように、こうした研究をその園や学校だけではなくて、文京区あるいは文京区の外も含めてしっかり発信をして共有していくことが必要になるわけです。例えば、今年度研究発表のようなものも、コロナ禍でできずに、紙面発表になったりしております。正直、学校や先生方も忙しいところがあって、せっかくいい論文でも、文章だけではどうしても中身までがよく理解できない部分があります。できれば、実践の様子を見たり、映像でもいいと思いますし、そういったものを研究発表等で交流できるのが一番かと思いますが、今はコロナでそういったことが難しいところです。

本日はご紹介しているこの研究奨励については、例年論文形式になっておりますので、その部分については、少し課題として認識しております。今後代表校でご紹介して、論文等については、各学校に配布をしておりますが、より浸透できる工夫もしてまいりたいと思いました。

○加藤教育長 ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日はご用意した案件については以上になります。

第3 その他の事項

○加藤教育長 その他、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、第2回定例会はこれをもって終了させていただきます。本日はありがとうございました。

(14:49)

令和3年2月4日

議事録署名人

教育長

委員